

第3回定時総会のご挨拶

本日は、一般社団法人日本金型工業会として第3回、創立以来だと第58回総会となります。

正会員ならびに賛助会員の皆様には御多用中にもかかわらず多数の御出席を賜り御礼申し上げます。平素より当工業会の運営と活動に多大な御協力をいただき併せて御礼を申し述べます。

2014年度（～3月）の金型生産金額は機械統計によれば、前年度より7.2%の上昇、リーマンショック直後の2009年度の121%を得ました。型種別では変動があり、プレス用110%、鍛造用203%、鋳造用111%、プラスチック用112%、ダイカスト用185%、ガラス用76%、ゴム用100%、粉末冶金用135%です。

しかしながら、リーマンショック前である7年前の76%に過ぎません。最近の1月～3月の前年比は金型全体で113%（型種別では90%～159%）と上昇しており、アベノミクス・円安の追い風の中で、早い回復が望まれます。

本年4月に、有明の東京ビッグサイトでおこなわれた「インターモールド」では、正会員71社が出展されました。5社に1社が出展されたこととなります。昨年、「新金型産業ビジョン」を発行いたしました。小規模企業が対応できることをモットーに、①営業力（提案力）②海外展開 ③金型技術を活かした周辺分野への事業展開 ④人材確保・人材育成 ⑤技術研究開発 ⑥サプライチェーンを有効なものとするための連携・提携の推進をキーワードとして、まとめておりますが、その実践の場として会員皆様にインターモールドをご利用いただいたものです。来年は大阪開催です。さらに多くのご参加を期待しておりますとともに、インターモールド開催を支えて頂いております賛助会員皆様のご出展厚く御礼申し上げます。

また、既に会員皆様お付け頂いております金型バッチ、平成27年度より「日本の金型PR」事業のシンボルとして経済産業省推進のJAPANブランド事業のシンボルマークをベースとして作成したものです。JAPAN QUALITYを支えるのは日本KANAGATAの精神で作成いたしました。会員以外の方も、金型応援団としてご着用いただけたら幸いです。

世界のものづくりは、ドイツのインダストリー4.0にみられるように、グローバルで大競争の時代に入っています。新時代のものづくりにかかせない金型産業のため、日本金型工業会への更なる御支援、御協力をお願い申し上げます。

平成27年6月5日

一般社団法人 日本金型工業会

会長 牧野俊清